

保育おおさか

No. 480

平成27年8月1日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪府中央区中寺1丁目1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

http://www.ans.co.jp/u/osakahtoiku/

近畿ブロック
保育研究集会

すべての人が子どもと子育てに 関わりをもつ社会の実現をめざして

7月9日、10日の2日間、平成27年度近畿ブロック保育研究集会京都
市大会（主催：近畿ブロック保育協議会・公益社団法人京都市保育園連
盟）が、ホテルグランヴィア京都で開催されました。

1日目に基調講演、分科会の発表が行われ、2日目には記念講演が行
われました。

【基調講演】

「子ども・子育て支援新制度に係る
施策とそのねらい」というテーマで
内閣府子ども・子育て本部、企画調
整官の佐藤創一氏から話がありま
した。

佐藤氏はまず新制度のポイントに

（関連記事2面）

ついて「待機児童の解消」「小1の壁
の打破」「子育て不安の解消」など、
子どもや子育てを巡る諸課題を解決
し、少子化の進行を食い止め、子ど
もを産み育てやすい社会の実現をめ
ざすものと説明。消費税率10%への
引き上げにより確保される0・7兆
円を含め、追加の恒久財源を確保し、
子育て支援の質、量の両面にわたる
拡充を図りたいと話しました。

また新制度の内容と平成27年度予
算についても報告。今年度の社会保
障の充実・安定化について、消費税
率の引き上げによる増収分8・2兆
円のうち1・35兆円は社会保障の充
実に充てられ、これまでは医療や介
護が中心でしたが、このたびの新制
度の施行など、子ども・子育て支援
の充実にも充てられます。

さらに制度施行後、国から「施設
型給付等に係る各種加算について暫
定的に支給する柔軟な対応をするこ
と」、「加算の要件を満たしているに
もかわらず市町村の判断により加

算を行わないこと」など施設・事業
者の事業運営に支障が生じないよ
う、留意事項について4月以降、市
町村に対し、2度周知していること
を報告されました。

【記念講演】

翌日の記念講演では、東京大学名
誉教授・養老孟司氏が「子どもの壁・
子育ての壁」をテーマに話されま
した。

養老氏は、「現代の子どもたちは
『意識の世界』で生活している。日本
の子どもは未来に夢をもてない状況
になっている」と話されました。

戦後は、死が身近にあったため、
『今日、この日を生きている子どもに
思う存分、遊ばせてあげたい』と考
え、子どもの遊ぶ姿を大人が笑顔で
見守る時代でした。しかし、現代で
は、「勉強を頑張れば良い大学に行け
て良い職に就ける」などと意識的に
教えてしまう。そのことで、実感す
ることや、試みるものが少なくなり、
未来に夢をもてなくなっています。

また、若者は、意識的に考えるこ
とが当たり前になり、意識以外のこ
とを考えることがとても苦手です。
職場では、やってみないと分から
ないことは許されなくなってしまう、
上司がそれを許すと社会からは、無
責任だと判断されてしまう。何が起
こるかかわからないことが未来である

（2面に続く）



先日、物理学
者アインシュタ
インの手紙27通
が約5200万
円で落札された。
その中で自分の
物理学理論が後

の原子力爆弾につながったこと
に対する悔恨の念が記されてい
たとか。唯一の原爆被害国である
日本を、彼はこう評価していた。
『近代日本の発達ほど、世界を驚
かせたものはない。（中略）私は
このような尊い国が、世界に一カ
所くらいなくてはならないと考
えていた。（中略）戦争を繰り返
し戦い疲れた最後に、人類は真
の平和を求め、世界的な盟主を
あげねばならない。（中略）我々
は神に感謝する。我々に日本と
いう尊い国をつくっておいでく
れたことを』原爆投下から70年
が経った。8月6日にウラン型・
9日にはプルトニウム型の原爆
が炸裂し、30万人の無辜の日本
人が一瞬にして犠牲となった。
今日大団間における戦争が抑止
されているのも、この原爆の威力
を人類が知ったからであらう。
悲しくも冷厳として横たわる事
実である。彼の言う人類が「戦
い疲れ」る日はいつ到来するのだ
ろうか。彼は今、草葉の陰から
何をか思わん。（編集委員N・M）

(1面からの続き)

が、それが許されない。そのことで若者が未来を感じなくなると話されました。

最後に養老氏は、「子どもがどのように育つのかわか

らないため、親は一生懸命子育てを行い、子ども自身も物事を意識的に考えず、何も決まっていけない時間が『子どもの財産』である」と強調されました。

分科会レポート

「保育の社会化にむけて」

第7分科会では、実践発表などが行われました。同分科会では大阪府から池田市・はたの保育園園長の鵜飼真理子氏と主任保育士の笹間奈緒美氏が発表。

近年、子どもの生活習慣の乱れを感じていた鵜飼氏。子どもの生活リズムの向上のため健康教育の必要性を感じ、「食べて、動いて、よく寝よう」を合言葉に、子どもや保護者とともに生活習慣の見直し、改善に力を注がれました。

生活習慣や身体測定結果などを記入する「すこやかキッズカード」を中心に食事、運動、睡眠などの重要



鵜飼真理子氏

性、また、乳幼児期に健康な生活習慣を身につけることの大切さを地域一人ひとりの親子に対して発信する実践を行われました。

発信をする際、年間を通して継続的に支援を受けてもらうこと、地域の方に継続して保育園の活動に参加してもらうことが重要であるため、はたの保育園では全体に対する活動だけではなく、個々の家庭に寄り添った3つの支援活動を行いました。

①保育園の活動に参加された方に、その都度アンケートをとる。アンケート結果をしつかりと把握するこ

とで、信頼関係を築き、リピーターが増えるよう活動を行っていく。

②身体測定を実施して、年度末に一人ひとりの成長曲線グラフを作成し配布することで毎月測定に來ってもらう。

③睡眠時間や朝食の有無運動をしたか、などの生活調査を行い「すこやかキッズカード」を作成し前回の結果との比較をしてもらう。個々の年齢や家庭状況をふまえてフィードバックすることで、できたことを褒め、課題解決に向けたアドバイスをして信頼関係を構築する。

鵜飼氏は「保育園の活動に参加してくれる人に働きかけることで、在宅時期の子どもにとって健康な生活習慣を身につけることが大切だ」という意識を高めてもらいたい。地域に根づく社会福祉法人として、地域の親子など多くの方に気軽に足を運んでいただける場所でありたい」と今後のあり方について話されました。

助言者の華頂短期大学・教授の流石智子氏は「日々忙しい保護者が、食事や睡



笹間奈緒美氏

眠などに細かく目を配るしかけを作ること、また、一人ひとりに対して支援を行うことで、ここに来たらアドバイスがもらえるという意識をもってもらい、継続して足を運んでもらうことが重要」と強調しました。

保育の営みの重要性を発信

分科会のまとめとして、流石氏より講義。

今日、子どもを対象にした犯罪や虐待の増加など、子どもをめぐる深刻な課題が増えていきます。保育の社会化とは、次世代を創造する子どもをかけがえのない存在として愛おしみ、価値を認めること、子どもや子育てに多くの人が関心を持ち、社会全体で育んでいく子育て文化を地域社会に向けて発信していくことです。

流石氏は「子どもたちを取り巻く環境が深刻な状態になっているからこそ、子

育て文化について課題をもって考えていかなければならない。その課題を考えるうえで重要な点は、経済的理由以外の子どもへの貧困が増えてきていることである」と話されました。衣食住などの生活習慣の乱れなどから、これまで当たり前と思っていた事柄が文化として親に伝わっていない家庭が増えている今、何を貧困とするか、貧困の考え方を整理することが重要です。

また、「保育の社会化は、地域への発信が家庭での子どもたちの発達を支え、子育てを考える行動につながっている。何を特徴としてその保育所・こども園から発信していくかを考えて、地域に向けて発信していくことで施設を輝かすツールにもなる」と強調しました。

以前は地域で受け止められていた子育て機能ですが、現在では地域の人間関係が希薄で子どもの逃げ場がなくなり、支えられていた地域からの支援が受けられなくなっています。流石氏は「地域で子育てを受け止め、地域の子どもたちに

国家戦略特別区域限定保育士試験

大阪府を含む4府県で実施

「国家戦略特別区域法及び構造改革特別区域法の一部を改正する法律」において、地域限定保育士試験合格者は登録後3年間、試験を受け資格を取得した自治体内のみで保育士として働くことができ、4年目以降は全国で働くことができる「地域限定保育士」となるための試験制度が新たに創設。

この地域限定保育士試験の実施自治体は大阪府の他、神奈川県、沖縄県、千葉県（対象地域：成田市）です。

もりだくさんな保育内容で 子どもたちの興味を育てる すくすく育つ子どもたちが 頑張りのもと

高槻市

幼保連携型認定こども園
津之江さくら保育園

「保育教諭は、子



桜の下で給食を食べます

また園では、職員会議の中
で保育教諭の誕生日のお
祝いをしたり、整体師による
マッサージの施術などもあ
ります。懇親会を
はじめ職員間の交
流も積極的に図っ
ておられ、それが
明日の保育への意
欲向上につながっ
ているそうです。

(編集委員 M・K)

子どもたちが大好きです。今
後、制度がどのように変わ
ろうと、大切な子どもたち
が無事にすくすくと成長し
てくれることを楽しみに頑
張りたいです」と浦田先生
を中心に全員の先生方が話
されていたことに、とても
感動しました。

そのような環境の中、木
をふんだんに使用した室内
はとても明るく、角も安全

す。

また、一時預かりや休日保
育など地域の子育て支援事
業を行い、日替わりで預かる
子どもが変わるなか、さまざ
まな工夫をして地域の保育
ニーズにも積極的に応えて
います。地域子育て支援拠
点事業でも、その輪に入るこ
とが苦手な家庭でも少人数



動線を工夫された玄関

(編集委員 T・T)

で参加しやすい環境を独自
で設けています。

のためすべて丸くなつてい
ます。丘陵地にあるため、
駐車場と保育園、園庭に高
低差がありますが、子ども
たちが移動しやすいように
スロープや出入口を工夫さ
れています。

保育ではリズム遊びを全
クラス合同で行い、年上の
園児が見本となることで、
子どもたちの意欲にもつな
がっています。5歳児クラ
スでは和太鼓に取り組み、
夏祭りのオープニングや運
動会で練習してきたことを
発表しています。

「人と人との輪をつなぐネット ワークづくり」をめざす

地域の子育て支援に貢献

枚方市

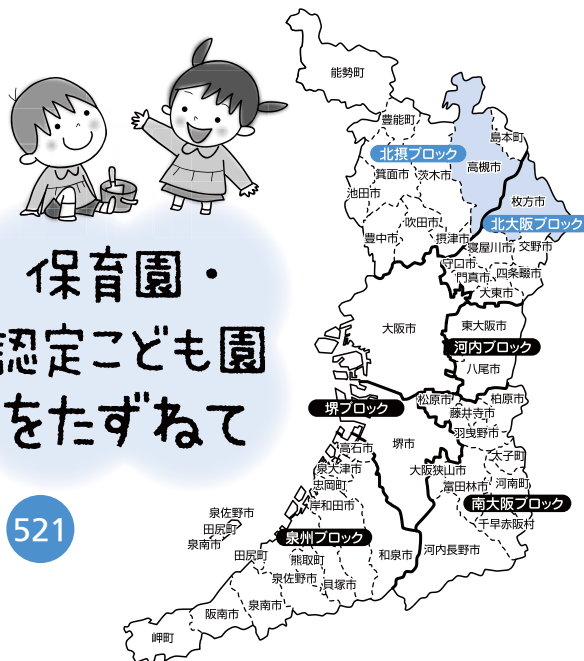
保育所
さだ
蹉跎保育園

市内を一望できる保育室



保育園・ 認定こども園 をたずねて

521



初夏には皆でなすびを植えます

堺

市南区にあるひなぎくこども園は、緑に囲まれた静かな環境の中、昭和50年に開園。平成20年に園舎を建て替え、光と風を取り込み明るく落ち着いた雰囲気、保育室と、広々とした園庭と豊富な遊具。散歩や戸外遊びを多く取り入れ、のびのびとした保育に取り組んでいます。

また、平成27年度から幼保連携型認定こども園に移行し、今まで以上に活動の充実を図られています。

「健全な体づくりと健全な心づくり」をめざし、0・1・2歳児は育児担当保育を導入。食事面に重点をおき、一人ひとりの食事状況を把握し、言葉豊富に声をかけ、食育を育てます。食育や好奇心を育てます。食べやすいユニバーサル食器で、自分で「全部食べた」という達成感、食べる喜びを感じられる楽しい時間を心がけているそうです。



楽しみの食事

健全な体づくり・健全な心づくり

意欲や好奇心、考える力をもった子どもに

幼保連携型認定こども園

堺市

ひなぎくこども園

3歳児以上は毎日のミニマラソンやリズム運動などで、足腰や腕の力の強化。週1回、専門の体育講師による指導で、苦手意識を克服し「運動大好き・やればできる」という気持ちを育てています。他にも体づくりと子育て支援の一環として、スイミング送迎事業を実施。子どもたちが毎回楽しみに活動しているようすがうかがえました。



体づくりのようす

「継続は力なり」怪我も少なく、欠席や感染症罹患数も減少してきました。よく食べ、よく動くことでメリハリがつき、考える力が育ち、先を見通して活動しようとしている子どもたちの姿は自信に満ち、キラキラと輝いています」と山岨俊彦園長はおっしゃいました。

(編集委員R・T)

保育園・認定こども園をたずねて

522



わあ〜ぼくのえができた〜!

はつがの国際保育園は、姉妹法人の学校法人嶋田学園が今まで幼稚園で築いてきた幼児教育の蓄積を乳幼児の保育にも生かしたいと、今春定員150人で開園しました。

また、年長児は就学前教育の一環で、全員が一人机で先生の方を見て、正しい姿勢で指導が受けられるようにしています。



外国人教師による英語指導

また、外国人教員による英語指導では、歌やカードを使って楽しみながら英語に親しみ、体育指導ではサーキット運動や温水プールでの水泳指導もあり、いろいろな経験ができる環境を整備。園の近くには公園が、2カ所あり、環境も抜群。自然に満ちた公園で元氣一杯遊んだり、散歩を楽しんでいます。素晴らしい環境の中、笑顔で、のびのびと過ごしてほしい、と園長の上岡左知子先生は話されました。

(編集委員K・A)

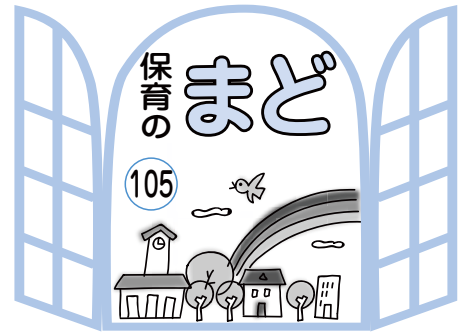
徳育中心に国際バランスのとれた教育を実践

子どもたちが登園を楽しめる工夫が満載

和泉市

保育所

はつがの国際保育園



シリーズ●より良い保育士養成のために

ー 保育者のためのキャリア形成 ー

「子どもが好き」から始まる 保育者をめざした育ち

相愛大学 中西 利恵

今月号は、相愛大学教授・中西利恵氏にご執筆いただきます。

子ども・子育て支援新制度が実施され、すべての子ども・子育て家庭を対象に、幼児教育・保育、地域の子ども・子育て支援の質・量の充実を図るため、待機児童解消加速プランや保育士確保プランなど、各市町では地域の実情に応じた施策メニューを選択・実施することが求められます。

大阪府の顕在化する課題解消に向けて、いま、保育者を送り出す側（保育士養成校）も採用する側も「保育者を養成するとはどうい

テーマに、保育士養成教育の現状や取り組みなど関連する話題や情報を発信してみたいと思います。

実習と保育者をめざした育ち

ー自分を見つめる

うことなのか」、「保育者にとってのキャリアとは何か」を改めて考えなければならぬ状況であると思います。

キャリア形成は、養成段階のみならず、保育者になつてからも経験、自己研鑽、研修などを通じ、保育の仕事に必要な専門的な知識や技能・態度を身に付け続けながら、自らの人生および保育の価値観を形成し続けることと考えます。（参考文献：石川昭義・小原敏郎編著「保育者のためのキャリア形成論」建帛社、2015）以上のことをふまえ、ここでは「保育者のためのキャリア形成」を

学生は、保育者をめざし、保育の専門的知識・技能・技術を習得するとともに、それらを生かすための人間性をはぐくみ、それに支えられた保育者としての専門性を獲得していきます。実践に生きる専門性を獲得するには、実践経験が必要であり、学生にとっては実習が実践経験の中心となります。実習では、初歩的とはいえ「保育を「観察」し「記録」する活動を基盤にして指導計画の立案、準備、保育の実行、反省、評価という実践体験を行います。それらを通して、子どもの理解を深め、人間性や専門的知識などの獲得へとつなげていきます。実習が保育者をめざした育ちにより確実につながるよう、実



「グループで振り返りワーク」のようす

習後の振り返りや省察はていねいに実施します。

以下に、実習事後指導で得られた学生の省察を紹介いたします。実習と保育者をめざした育ちの関係を確認したいと思います。

「子どもの立場にたつて、子どもと一緒に楽しく遊んでいたと思います。しかし、それで終わっていました。子どもと同じ視点（次元）がまず大切ですが、ねらいがある指導となると、子どもが周りの人の思いも受け止め、自分の思いとうまく調整をしていく必要があります。子どもが納得して活動できるよう仕向けていくといえ、言葉が悪いですが、それは難しいです」

学生は子どもと直接かわりあう立場にたつて初めて、子どもは自分の思い通りに生きようとすることを理解します。子どもも一つの主体であり、大人も一つの主体であるから双方の思いが一致しないことは授業では学んでいることです。ですが、実習を通して『子どもは思い通りに動いてくれない』ことを痛感し、自分が子どもを理解できていなかったことを理解し、歩みを一歩進めています。

「実習という限られた期間ですが、子どもとともに生活するという経験をしてみて思い通りにならないことだらけでしたし、『保育』の2文字がこんなに重いものとは思わなかったです。でもやっぱり子どもはかわい。入学当初の『子どもはかわいから好き』とは少し違うと思います。子どもとの感情の衝突やすれ違いは避けられないし、きれいごとではすまされないことがわかって、不満やいらだち、悩みや自信喪失など体験しました。それでもやっぱり子どもがかわいし、子どもを丸ごと受けとめられるようになりたいと思います」

入学の際の志望動機は「子どもが好きだから」が確かに多いです。養成校に進学してくる学生は、入学時点でそれぞれにもうすでに保育や子どもについてある程度の枠組みや思いをもっています。

しかし、それは入学までの間で垣間見てきた限られた情報によるところが大きいです。「子どもが好き」からはじまる保育者をめざした育ちが、実習による実践を体験し、自分を見つめ直し、子どもへの理解をさらに深め、保育職アイデンティティーの形成へと進んでいきます。

省察の中に、学生が保育者に求められている資質や役割がどんなことであるかについて理解を深め、自身自身がどんな保育者をめざすのかについて再考するという、保育をめざした育ちの過程を歩んでいる姿がみられます。

保育は、子ども同士が関わり合うところ、また保育者と子どもが直接ふれあうところで営まれることを考えれば、自分を見つめる（省察する）時間を十分もつことが大切でしょう。

ブロックだより

OSAKA

河内

楽しく学ぶ音楽会

八尾私立保育園連盟保育士会が6月3日、八尾市生涯学習センターで保育士研修を2部制で開催。講師にピアノの廣沢繁司氏、声楽家（ソプラノ）の西田真由子氏を招き、100人

が参加しました。

第1部は廣沢氏のピアノソロ。演奏はシューマンなどを2曲。子どもの情景を思わせる内容でした。

次に西田氏のソプラノソロで、オペラで有名な「蝶々夫人」など3曲。ライブで聴く心地よい音色や歌声に全員酔いしれ、気もちもとても落ち着きました。

第2部は西田氏から「幼児にもわかる腹式呼吸と発声法」を段階的に説明。

①右と左のおしりを仲良くしてね（お尻をしめる）②ドキンちゃんの角をひっぱろう（姿勢を正せる）③ケーキにろうそくをたてましょう（指を一本立てる）④匂いをかぎましょう（鼻から吸う）⑤ろうそくの火を



蝶々夫人を熱唱される西田氏と伴奏の廣沢氏

消しましょう（口から息をはく）以上の行程で自然に

泉州

ほめてしつける効果的なしつけ コモンセンスペアレンティング

オッジヒューマンネットワーク代表の香川芳美氏をお招きし、貝塚市コスモスシアターで研修会を行いました。

コモンセンスペアレンティングとは、子どもが社会に適応し愛情豊かな情緒を育むため7つの共通プロ



香川芳美氏

グラムのもと、子育て・援助スキルをもって、生きる力・社会的スキルを習得させていく方法です。

問題行動を起こす子どもは心を満たすため、色々な問題行動を起こし、大人とかかわりをもとうとする。問題行動を予防するには、子どもに行ってほしいことを具体的に話し、できた場合、具体的にほめる。その練習を繰り返していけば、良い行動を伸ばす。お互いの信頼関係が築かれ、子どもの社会的スキルが身についていく。

「悪い子どもは一人もいません。子どもが悪くなるのは悪い環境と悪い学びがあったからです」開発者フナガン神父の言葉のように、私たちが何をしたか、これから何をすべきかを考えさせられました。また、「種を植えても土壌が枯れていれば芽が出ない。子どもを育てる土壌である保護者にも、育みの行動（寄り添い・世話・受容・共感・勇気づける）が必要」と話されました。

（認定こども園 横山きのみ保育園T・H）



さんぽ

暑中お見舞い申しあげます。本格的な夏を迎え、水遊びの楽しい時期になった。海・川へのレジャーも増えると、水の事故などが起こる確率も高くなる。自然とともに暮らす人間にとって、自然災害など人間の力では及ばない人知を超えた世界が存在することも認めざるを得ないと思う。山へ登ったり、川で遊んだり、農業体験をしたり。日々、自然を身近に感じ、自然と関わりをもち、色々な体験をすることで、子どもたちは五感を磨き、

子どもたちと 保育をとおしともに育つ

南大阪ブロック

がやってきているが、どんな時代でも子どもたちの未来へ夢と希望をもち続け、誇りを胸に保育事業の発展に貢献していかなければ。昨今、少子化問題・保育人材不足と課題は山積みだ

感性豊かに育っていく。危機意識をもち、自然とうまく付き合いながら、子どもたちがいきいきと活動できる場を提供していけるよう心がけたい。さて、保育にも大きな波

が、時代に即した経営感覚をもち、子どもたちがそれらのしわ寄せを受けないよう努めたい。また、職員の育成においても課題が多い。「人材」と書いてみるとよくわかるが、1

（石川保育園A・M）